



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
（奈良県保健環境研究センター内）
N a r a I D S C



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 気になる話題～インフルエンザ④～
- 奈良県結核患者情報（12月）



（調査週） 平成 24 年 第 4 週 1 月 23 日（月）～1 月 29 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	インフルエンザ	41.71	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	7.83	→	→	→	→
3	A群溶連菌咽頭炎	0.91	↑	→	↑↑	→～↑
4	水痘	0.80	→～↓	↓	→～↓	→
5	RS ウイルス感染症	0.46	→～↓	→	↓	→

※県インフルエンザ定点あたり報告数が、全県で警報レベル（30.00≦）となっています。

県北部地区概況 報告数は1220例で、前週報告の837例から激増。上位5疾患は、①インフルエンザ、②感染性胃腸炎、③水痘、④A群溶連菌咽頭炎、⑤RSウイルス感染症の順。インフルエンザの報告数（614→1049例）は、激増。RSウイルス感染症の報告数（9例）は、横ばい。感染性胃腸炎の報告数（122例）は、減少。水痘の報告数（12例）は、やや減少。A群溶連菌咽頭炎の報告数（11例）も、やや減少。なお、インフルエンザ定点からの報告の内訳《（ ）内は定点当たりの報告数》は、奈良市HC管内；381例（34.64）、郡山HC管内；668例（41.75）で、両管内共に警報値（30.00）を第4週になり上回った。郡山HC管内基幹定点から、マイコプラズマ肺炎が1例報告された。また、奈良市HC管内眼科定点からは、流行性角結膜炎の報告が1例あった。（村井 記）

県北部外来状況：外来患者数はインフルエンザの大流行で多くなっている。AH3N2が主流だが、地域によってはB型も流行している。今のところ重症化はみられない。ノロウイルスの感染性胃腸炎も流行している。例年通り嘔吐は1日程度で軽快し下痢があったりなかったりしている。ロタはない。RSウイルス気管支炎も僅かだがみられる。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、第3週の762例から第4週は1166例と著明に増加した。

上位の5疾患（第3週→第4週）は、①インフルエンザ（570例→1001例）、②感染性胃腸炎（153例→118例）、③A群溶連菌咽頭炎（3例→16例）、④水痘（5例→13例）、⑤伝染性紅斑（1例→4例）＝流行性耳下腺炎（5例→4例）の順であった。インフルエンザが大流行しており、1001例と更に増加した。基幹定点からは、葛城HCよりマイコプラズマ肺炎1例の報告があった。眼科定点からは、葛城HCより流行性角結膜炎1例の報告があった。（徳田 記）

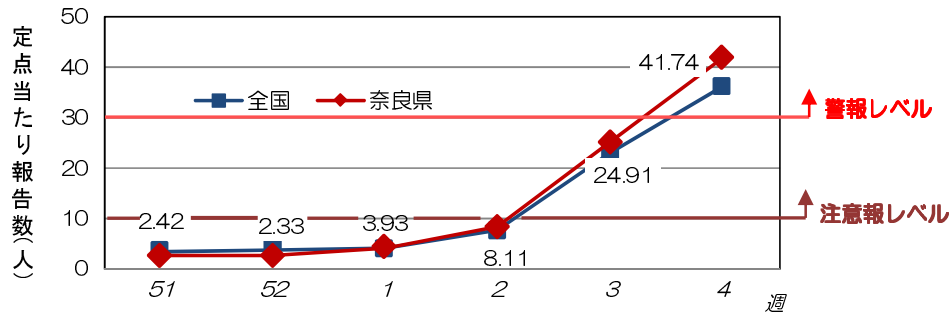
県中部外来状況：外来数はインフルエンザの流行で急増。学童は受診患者のほぼ100%がインフルエンザ陽性、殆どA型。幼児も増加中、B型も見られる。成人も罹患あり。今のところ重症例はない。予防接種済みの罹患例も多い。イナビル吸入後解熱しない例が何例かあった。感染性腸炎があり。嘔吐を主とするノロウイルス様。症状は軽症である。ロタは今冬一例もない。他に水痘が小流行中。RS気管支炎、マイコプラズマ肺炎は減少した印象。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第3週→第4週）は257例→293例と増加。報告のあった疾患は、①インフルエンザ（186例→244例）、②感染性胃腸炎（42例→34例）、③A群溶連菌咽頭炎（5例→5例）、④RSウイルス感染症（12例→4例）、⑤水痘（6例→3例）、⑥手足口病（2例→1例）、⑦突発性発疹（0例→1例）、⑧ヘルパンギーナ（1例→1例）であった。（柳生 記）

県南部外来状況：外来数は増加した。インフルエンザが第3週後半から急増、第4週には市内全域、全年齢層で激増、学級閉鎖も急増している。現在殆どがA香港型の模様であるが、たまにB型も混在している。当初一部の小学校の1クラスに限定してB型の流行が見られ学級閉鎖となったが、その後他の学年や他校でも少し認めるようになった。インフルエンザワクチン接種済者の罹患が非常に多いが、高熱があっても普通感冒と区別がつかないような元気なものも多い印象。ノロ疑いの感染性胃腸炎も平行して見られる。浸出性扁桃炎の所見のないアデノウイルス感染症、溶連菌咽頭炎、RSウイルス感染症の疑いなどインフルエンザと紛らわしいものあり。手足口病あり。マイコプラズマ肺炎はなかった。（山本 記）

【気になる話題 ～インフルエンザ④～】

第2週以降、全国的にインフルエンザの報告数が急増しています。奈良県でも第4週(1/23～1/29)の定点当たり報告数が41.74人と警報レベルを超えたことから、県保健予防課は2月2日付けで「インフルエンザ流行の警報」を発令しました(報道資料：<http://www.pref.nara.jp/secure/28861/120202flu-alert.pdf>)。



※奈良県定点当たり報告数のみ数値を記載

図. インフルエンザ定点当たり報告数の推移

表. 保健所別定点当たり報告数

調査週	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野	県合計	全国
第4週 (1/23～1/29)	34.64	41.75	32.36	58.64	42.00	39.33	41.74	35.95
第3週 (1/16～1/22)	17.36	26.44	19.73	32.09	17.00	45.00	24.91	22.73
第2週 (1/9～1/15)	4.91	9.06	6.55	10.27	3.67	17.00	8.11	7.33
第1週 (1/2～1/8)	2.27	3.50	2.09	6.91	5.00	7.00	3.93	3.76

警報レベル : 注意報レベル

今シーズンのインフルエンザは AH3N2 (香港型) ウイルスによるものが主体と見られます。乾燥や低温はインフルエンザ感染リスクを高めるのでうがいやマスクで喉の湿度を保ち、感染防止につとめてください。

(感染症情報センター 記)

奈良県結核患者情報

奈良県感染症情報センターでは結核患者発生動向情報を提供しています。
今回は12月の新規届出状況をお知らせします。

表. 結核届出数 (平成23年4月～)

市町村		12月	総計
北和	奈良市	5	63
	大和郡山市	2	15
	天理市	1	16
	生駒市	4	26
	平群町		4
	三郷町	1	6
	斑鳩町		4
	安堵町	1	4
中和	大和高田市	2	18
	御所市		8
	香芝市	1	13
	葛城市		5
	上牧町		8
	王寺町		10
	広陵町		9
	河合町		2
	橿原市	5	26
	桜井市		9
	宇陀市		6
	三宅町		1
	田原本町	1	6
	高取町		1
	明日香村		1
	南和	吉野町	
大淀町			6
五條市		1	14
十津川村			1
合計	24	284	

(1月30日現在)

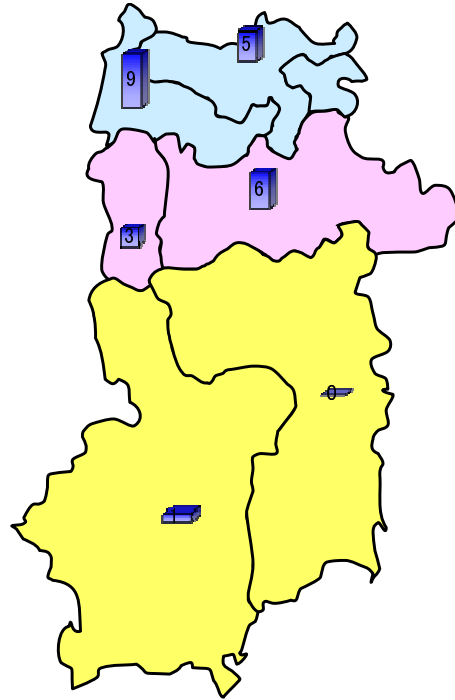


図. 保健所別届出数(12月受理分)

(感染症情報センター 記)